

第1章 時代の要請と県民の期待

大きな時代のうねりの中で、社会経済の変革を求める様々な声があり、変革に向けた時代の胎動が始まっています。これからの県土づくりは、その時々時代の風と潮流を読み、時代の要請と県民の期待に的確に応えていくことが大切です。

1. 少子・高齢化社会への対応

日本の人口は平成17年から減少過程に入り、少子化の進行と相まって世界に類のない速さで高齢化社会になると予想されます。

大分県の人口は、昭和60年にピークを迎えており、平成27年には約3割が65歳以上となる見通しです。

これからは、県内のどこに暮らしていても保健・医療・福祉などのサービスが必要なときに必要な場所で受けられる体制づくりや、高齢者や子供などすべての人々が健やかに暮らせる地域づくり、安心して子育てが出来る環境づくりなどが求められています。

県土づくりにあたっては、誰もが住みやすく、自立して生き活きと暮らせる地域づくりのために交通ネットワークの充実や快適な生活環境の整備が求められています。

2. グローバル社会への対応

急速な通信技術の発達により高度な情報伝達が可能になるとともに、交通・輸送手段の大量化・高速化によって、日常にかつ安価に、世界中のヒト・モノ・情報との接触が容易となる時代が到来しています。

このようなグローバル社会では、地域資源を利活用した産業育成、産業集積力を保持する環境整備、流通体制の確立や豊かな観光資源を活かした魅力ある地域づくりなどを進める必要があります。

県土づくりにあたっては、それらの活性化の基盤となる交通体系の整備や情報発信基盤の整備に取り組むことが求められています。

3. 環境を配慮した循環型社会への対応

近年の「大量生産・大量消費・大量廃棄」という社会構造は、生活排水等による水質汚濁や自動車などの排ガスによる大気汚染などの身近な問題だけでなく、二酸化炭素排出量の増大による地球温暖化、フロンを始めとした破壊物質によるオゾン層の破壊など、廃棄物の排出量増加や不適正処理などの環境問題が地球規模の課題として顕在化しています。

県土づくりにあたっては、本県がもつ豊かな森林や川・海などの自然環境を、きれいなまま次世代に継承していくため、環境を保全し配慮することと、環境負荷が少なく持続的発展が可能な循環型社会の構築に向けた取り組みが求められています。

4. 安全・安心社会への対応

本県を含む九州地方は台風の常襲地帯であり、台風や集中豪雨などによる浸水被害や土砂災害が発生しやすい自然環境にあります。別府湾から県西部にかけては活断層が多く分布し、地震の発生も懸念されています。

自然災害から県民の生命や財産等を守るため、県土保全施設の整備、緊急輸送路やライフラインの確保を進めるとともに、災害に強い県土づくりを促進していく必要があります。

また、県内における交通事故発生件数は増加傾向にあり、道路交通環境の整備や安全で円滑な交通の確保が求められています。

5. 分権型社会への対応

「地方分権一括法」や「三位一体改革」により国から地方への権限・税源の移譲が行われ、地方分権改革が進展しつつあります。分権型社会は自ら決定し、自ら責任をとる地域社会であり、市町村合併が進む中、今後ますます地域が自らの創意と工夫で力を高め、他の地域と競い合っていかなければなりません。

県土づくりにあたっては、広域的な連携・協調により地域の活力を高めるよう、経済や観光の基盤となる交通網の整備や快適な生活環境の整備が求められています。

時代の潮流

人口減少の時代

人口の減少
少子化の進行
高齢化の進行

グローバル化の時代

グローバル化の進展
国境を越えた交流
高度情報化の進展

環境の時代

地球環境問題
身近な環境問題

安全・安心の時代

災害への備え
巧妙化・広域化
する犯罪
食の安全に対する
意識の高まり

分権の時代

地方自立と
地域間競争
財政の制約

～ 今、県土づくりに求められているもの ～

時代の要請

少子・高齢化社会への対応

- ・活力維持に繋がる産業支援としての道路、港湾等の整備
- ・過疎化対策のための住宅、道路の整備
- ・子育て環境改善としての住環境整備
- ・学校の統廃合や通学路に関連する道路整備
- ・安全な生活空間の確保に向けた住宅、道路等のバリアフリー化
- ・独居老人、老人世帯等に対する災害対策

グローバル社会への対応

- ・人流、物流の国際化のための空港、港湾、道路の整備
- ・電子県庁化に向けた調達の電子化、電子入札等
- ・インターネット活用の災害情報提供等

環境を配慮した循環型社会への対応

- ・環境への影響評価
- ・廃棄物抑制、リサイクル等
- ・CO₂削減、渋滞対策
- ・水環境の改善のための生活排水処理、水辺の環境改善

安全・安心社会への対応

- ・浸水、土砂災害に対する河川、砂防整備、構造物の耐震補強等
- ・危機管理体制の充実

分権型社会への対応

- ・競争の土台作りとしての経済や観光を支える交通網の整備
- ・コスト削減対策
- ・事業の「選択と集中」と事業評価
- ・適切な維持管理

県民の期待

- ・福祉サービスの地域格差を解消してほしい。
- ・地域に応じた子育て、少子化対策を実行してほしい。
- ・過疎対策として、企業を誘致してほしい。
- ・高齢者が生活しやすい環境づくりをしてほしい。
- ・若者が住みたくなるまちづくり整備をすすめてほしい。
- ・子供が安全に遊べる公園がほしい。

- ・高速道路を早く整備してほしい。
- ・産業が密接する観光開発を進めてほしい。
- ・地域間のアクセス道路を整備してほしい。
- ・災害時の情報がすぐに分かるようにしてほしい。

- ・豊かな自然を残してほしい。
- ・地域の景観をよくしてほしい。
- ・下水道を整備してほしい。
- ・渋滞を減らしてほしい。
- ・県産木材をもっと使ってほしい。
- ・ゴミを減らしてほしい。
- ・循環型社会を進めてほしい。

- ・台風や地震などの災害に備えて河川、道路などを整備してほしい。
- ・災害などで道路が寸断しないようにしてほしい。
- ・危険な箇所を早急な防災対策をとってほしい。
- ・災害の情報を早く知りたい。

- ・地域のやる気を伸ばす周辺地域に対する支援をしてほしい。
- ・地域の実情に応じた整備を進めてほしい。
- ・一極集中にならないような施策を展開してほしい。
- ・地域間を結ぶ道路を整備してほしい。
- ・合併周辺部が取り残されないようにしてほしい。